

財団法人福島県海浜青年の家

第1節 概要

福島県海浜青年の家は、めぐまれた自然環境のなかで、青少年たちの集団宿泊研修活動をととして、規律・協同・友愛・奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年5月に開設された県の社会教育施設である。

当所のめざす教育目標は次のとおりである。

- 規則を守り、規律ある生活態度を養う。
- 相互連帯意識を高め、協同の精神を養う。
- 人格を尊重し合い、友愛の精神を養う。
- 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- 心身をきたえ、自己を高めようとする態度を養う。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役職	氏名	所属
理事長	佐藤昌志	福島県教育委員会教育長
副理事長	酒井信人	福島県海浜青年の家所長
常務理事	志賀英隆	福島県海浜青年の家次長
理事	高城勤治	福島県総務部長
理事	樫村五郎	福島県教育庁教育次長
理事	今野繁	相馬市長
理事	鈴木完一	福島県社会教育委員の会議議長
理事	太田緑子	福島県青少年教育振興会長
理事	土居正	福島県教育庁社会教育課長
理事	山口喜代次	福島県総務部財政課長
理事	大塚和美	福島県教育庁財務課長

(2) 職員組織

職名	所長	庶次 務長 課長兼	指導 課長	主 事	指 導 主 事	保 健 技 師	兼運 用 転 務 員手	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

(3) 運営委員

氏名	所属
◎阿部智義	相馬市教育委員会教育長
○志賀友定	福島県公民館連絡協議会副会長
秋川文悟	福島県青少年婦人課長

氏名	所属
金田浩一	福島県教育庁社会教育課主幹
小泉弘	福島県高等学校長協会代表
星重良	福島県中学校長会代表
太田豊秋	福島県青少年団体連絡協議会代表
天野淳乗	相馬市青年会議所代表
村岡まゆみ	相馬市青年協議会長
種村英明	海浜青年の家友の会長

◎印委員長 ○印副委員長

2 昭和59年度重点目標と成果

(1) 青少年研修の充実

- 研修団体に対する協力と適切な指導により、所期の目的をじゅうぶんに達成したとする団体が多かった。
- 多様な研修志向に応ずるため、研修内容の開発、指導資料の改善、整備につとめた結果、研修領域の拡大が図られた。
- 各種団体への広報活動や資料の提供につとめた結果、冬季利用研修団体の増加がみられた。

(2) 主催事業の効果的運営

- “集団宿泊指導担当者研修会”では、当所を利用する団体の指導者が、実際に宿泊して研修し、青年の家について理解を深め、各団体の研修にその成果が生かされた。
- “親と子・海浜のつどい”では、当地域の特色を生かした事業の企画運営にあたり、海水浴、砂の芸術、キャンプファイヤーなど、楽しくほほえましい親子のふれあいが多くみられ好評であった。
- “勤労青年のつどい”では、参加者の多様なニーズに応じて、豊富な海洋活動と充実した講師陣による講演が特に好評であり、大きな感動と友情の輪をひろげることができた。
- “レクリエーション指導者研修会”では、定員をはるかにこえる応募者があり、優れた講師の指導により、充実した研修であった。今後、この成果は、はば広い参加者の活力により、各地域への普及に役立つものと期待される。

(3) 現職教育の推進

- 各種研修会への参加や、他の施設の視察をととして、研修内容、指導資料の改善、充実を図った。
- 専門的指導力を高めるため、共同研修を推進するとともに、積極的に指導依頼に応じた。
- オリエンテーション時におけるVTRの活用により、生活指導の効率化が図られた。

(4) 安全管理の推進

- 事前打合せにおける引率者との連携を密にし、野外活動をはじめ、各研修時における安全指導の徹底に努めた。